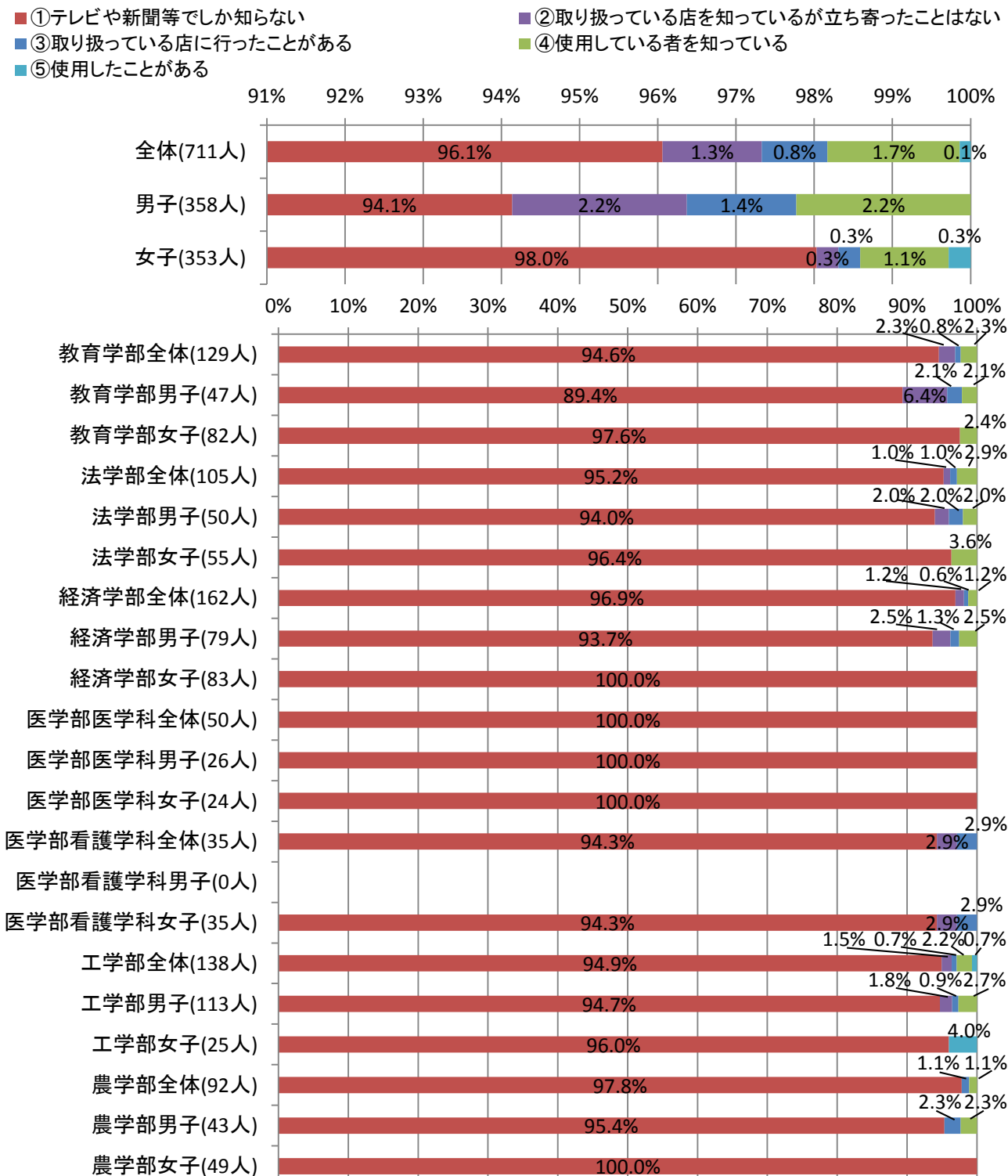


#### 4 社会規範の遵守、犯罪の被害等

##### (1) 危険ドラッグについて

問41 麻薬、覚醒剤、危険ドラッグ(脱法ハーブ、合法ドラッグ等)を身近に感じたことがありますか？

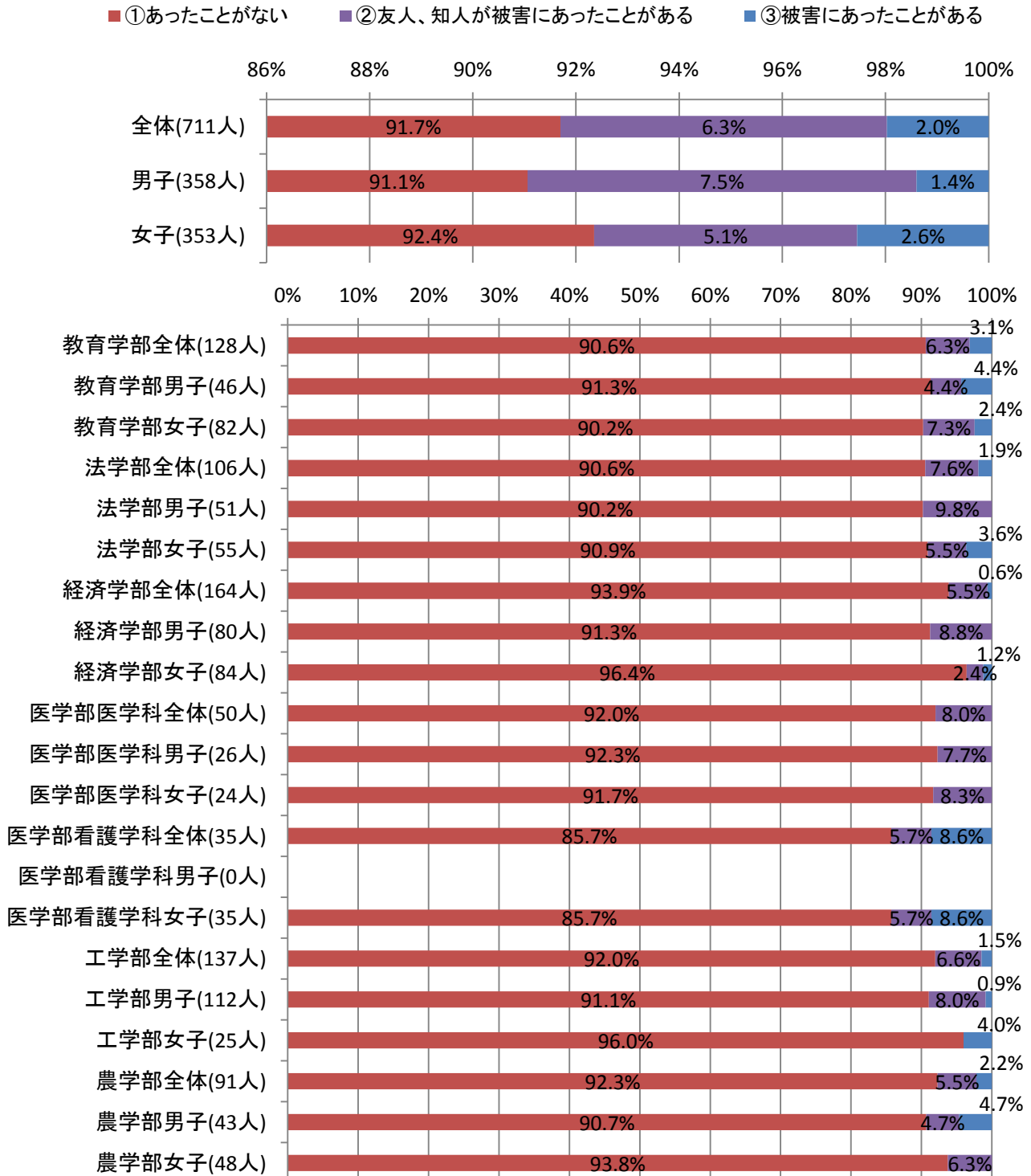
・学部・学科による差はあるものの、全体では危険ドラッグ等について「テレビや新聞等でしか知らない」との回答が96%以上を占めており、例年とほぼ同水準を維持しています。もっとも、割合こそ低いものの、危険ドラッグ等を扱う店や、実際に使用している者の存在が認識されており、危険ドラッグがより身近な問題になっているといえそうです。危険ドラッグをしようすると人体に悪影響が出るだけでなく、学生生活そのものが破壊されかねません。毅然とした態度で危険ドラッグを断っていただきたいと思います。



(2)サイバー犯罪について

問42 サイバー犯罪の被害にあったことがありますか。

全体ではサイバー犯罪に「あったことがない」との回答が90%以上を占めています。日頃から、このような被害に注意をしている学生が多いと推測されます。しかし、近年、サイバー犯罪の手口はより巧妙になっており、これまでの対策で防ぐことができないケースも散見しつつあるため、日常的に利用をしている携帯端末やコンピューターシステムを利用する際には、より一層の注意が求められると言えます。

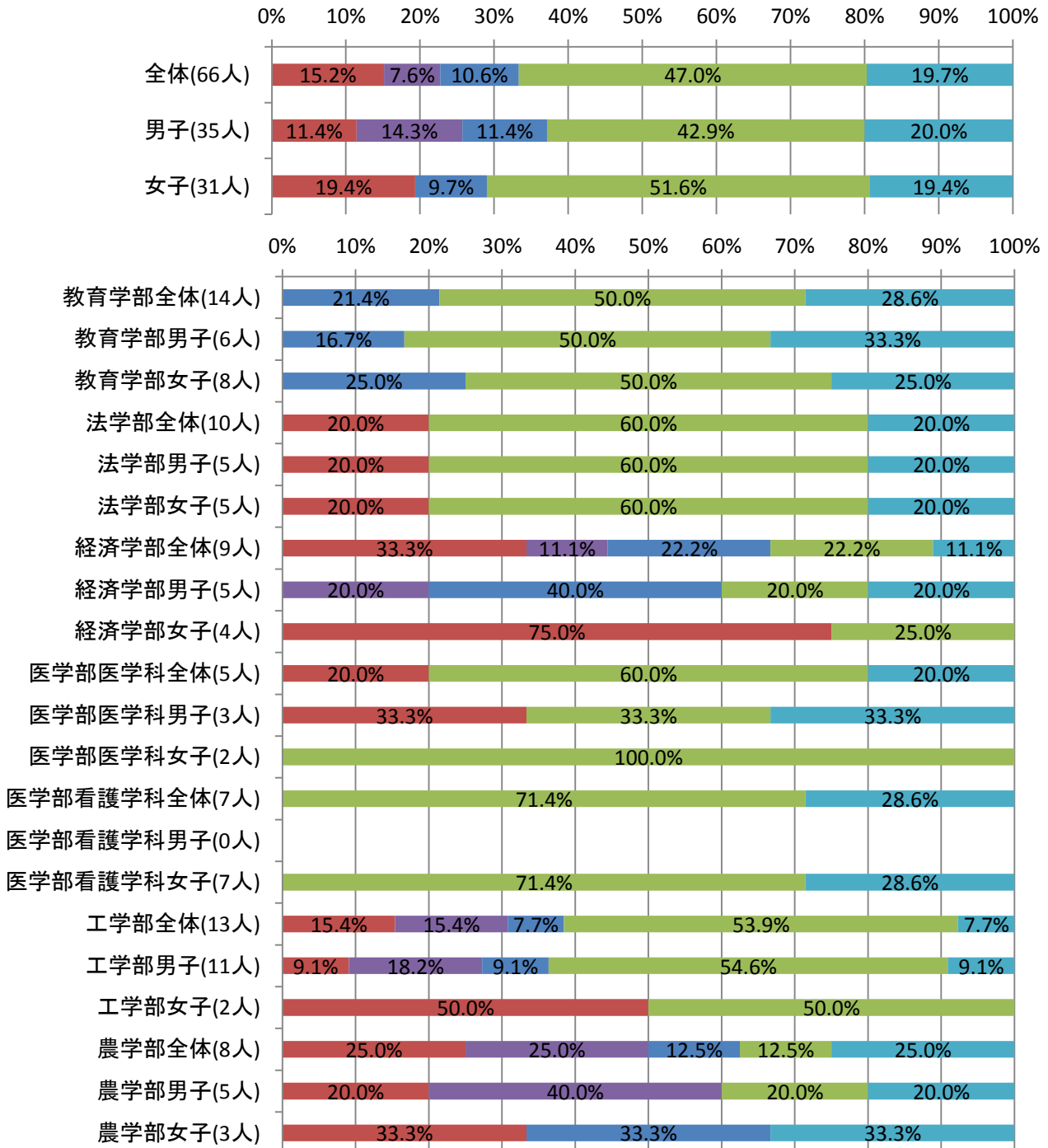


(3)サイバー犯罪で被害にあった内容について

問43 問42で2、3と答えた方に質問します。どのような内容の被害ですか。

学部・学科による差はあるものの、全体では「アカウントを乗っ取られ覚えのない記事を投稿された」との被害がもっとも多く回答されました。また、「アカウントを乗っ取られ、ショッピング請求をされた」との被害の割合も決して低くありません。サイバー犯罪に巻き込まれる可能性を下げるためにも、犯罪の手口を知り、パスワードやPINコードを推測されにくいものとする、個人情報等を安易に他人に教えない等の対策を各自で講じることが望まれます。また、大学としても、サイバー犯罪に関する啓蒙活動を積極的に行っていく必要があると思われます。

- ①偽サイトのショップで代金を詐取された
- ②ネットオークションで代金だけ搾取された
- ③アカウントを乗っ取られ、ショッピング代金を請求された
- ④アカウントを乗っ取られ、覚えのない記事等を投稿された
- ⑤その他



問44 問43の質問で「5.その他」を選択した方は、具体的に記述してください。

教育学部

男子学生

回答なし

女子学生

・誤って押してしまった。  
・アカウントを乗っ取られ、覚えのないメッセージを何人かの友達に送信された。

法学部

男子学生

回答なし

女子学生

・覚えのないメールに返信してしまい、お金を搾取された。

経済学部

男子学生

・パソコンの電源が入らなくなった。

女子学生

回答なし

医学部医学科

男子学生

回答なし

女子学生

回答なし

医学部看護学科

男子学生

回答なし

女子学生

・ワンクリック詐欺にあい、脅迫メールが何通も届いた。

工学部

男子学生

・ヤフーメールで身に覚えのない大量の送信済みメールがあった。ログイン履歴を見ると、1つだけ中国からログインされているものがあった。メールにログインするパスワードと個人情報を見るパスワードが同じなので青ざめたが、自分の個人情報欄を見ると、いい加減な事ばかり書いてた(例えば自分が今110歳など)。恐らくアカウント作った時は、パソコンのオンラインゲームがしたいがために急いで作ったアカウントだったと思う。なので、結局は他者からログインされても問題はあまりなかったのだが、やっぱりログイン国籍が日本日本日本(自分でログインしてる)の中で1つだけポツンと中国かがあった時に青ざめたのは今でも覚えている。

女子学生

回答なし

農学部

男子学生

・アダルトサイトの架空請求

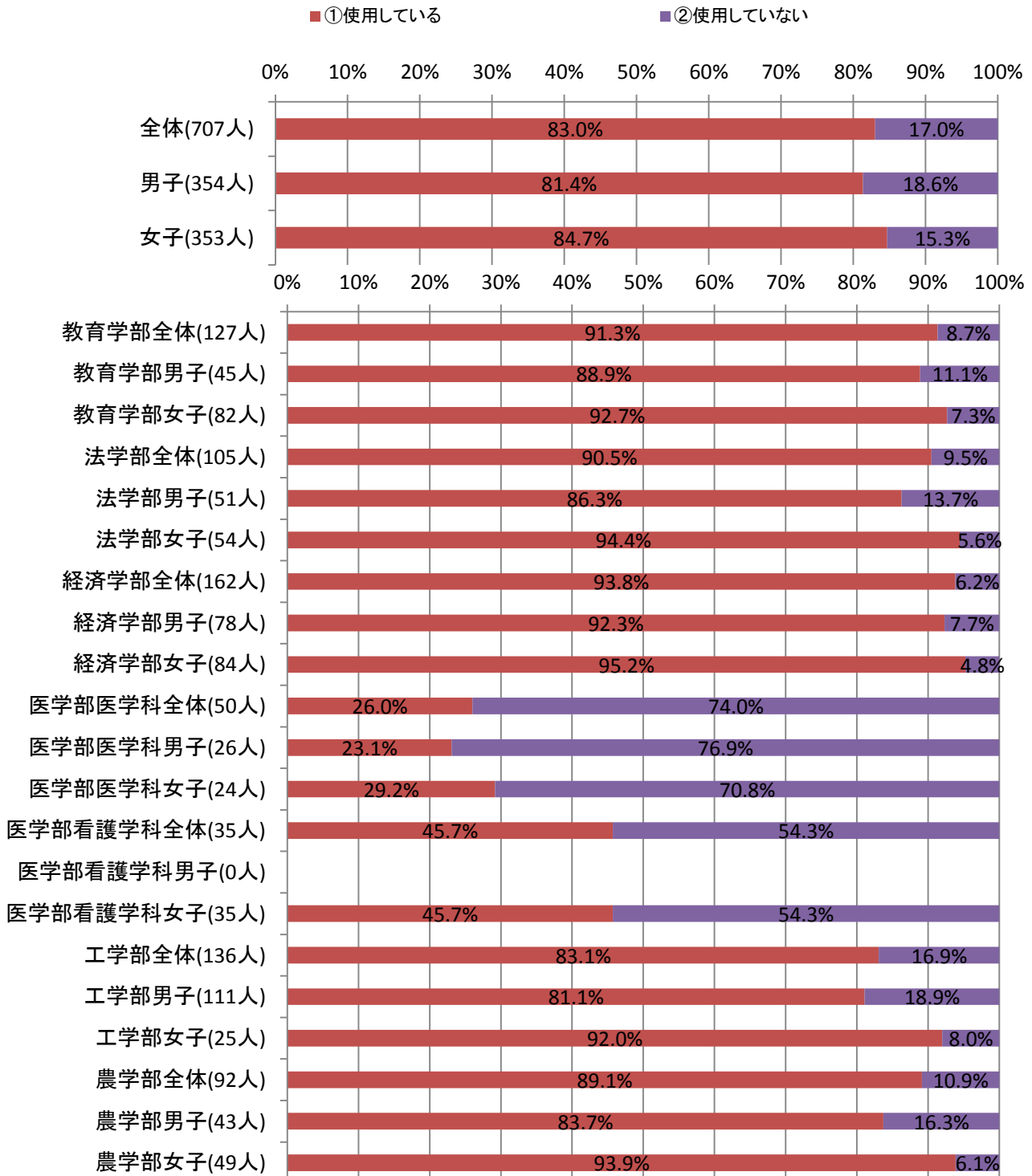
女子学生

・間違えてタップしたら身に覚えのない変なサイトに飛んで料金を請求されたので無視した。

(4) 自転車の使用について

問45 自転車を日常的に使用していますか。

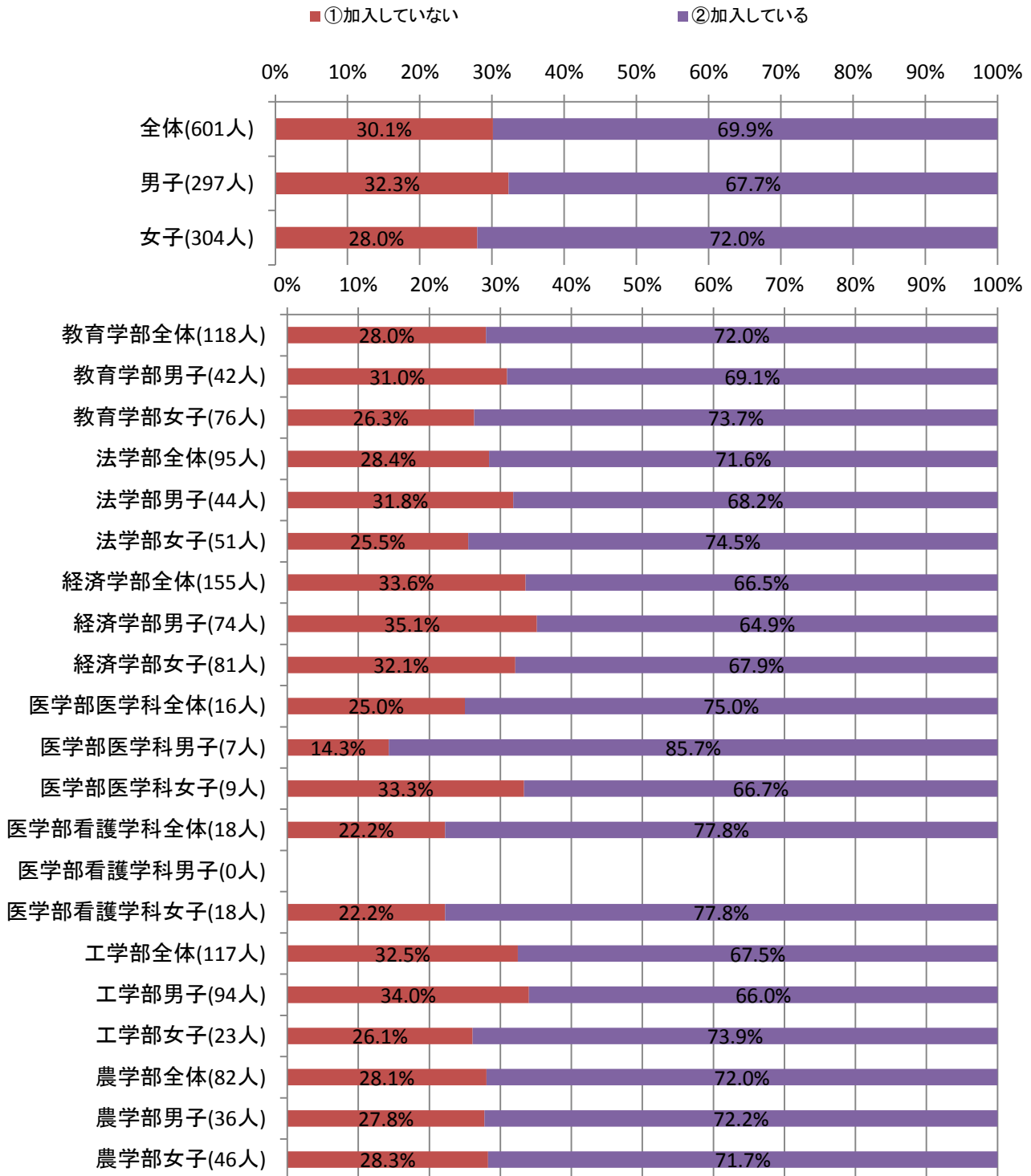
全体では、80%以上が自転車を日常的に使用しているとの回答が得られ、平成27年度の90%以上から下がっております。香川県内は急な坂道が少なく、晴天の日も多いことから、自動車に移動手段として好まれる傾向があります。さらに高松市内においてはレンタサイクル事業も実施されており、自転車を日常的に使用しやすい環境が整っております。けれども、自転車が積極的に利用され台数が増加すれば、放置自転車が増加したり、違法駐輪も増える可能性もあります。使用者には、責任のある行動が求められていると言えます。



(5) 自転車事故に係る保険の加入状況について

問46 問45で1と答えた方に質問します。自転車事故に対応できる保険に加入していますか。

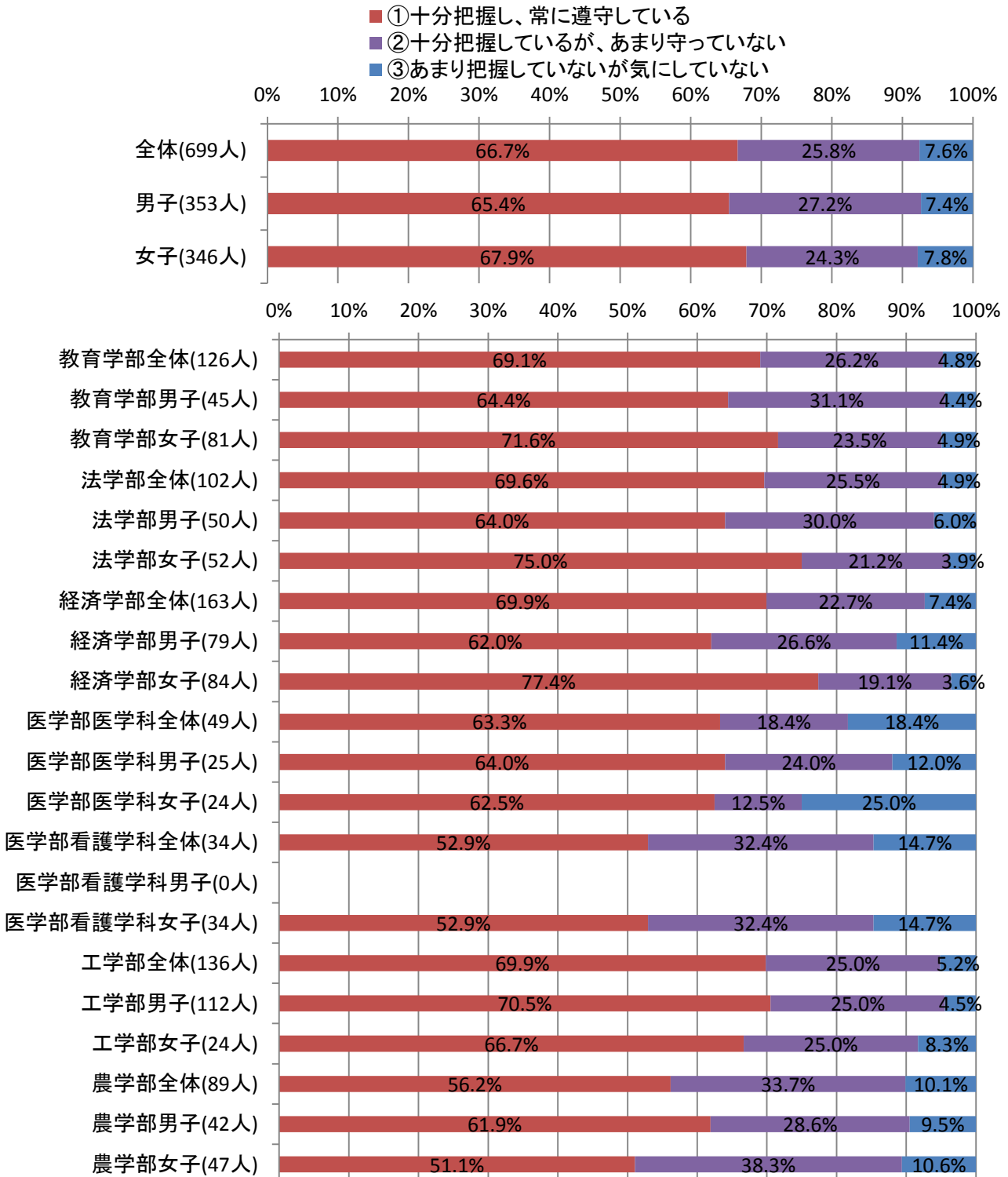
全体的の70%以上が、自動車事故に係る保険に「加入している」との回答でした。しかしながら、「加入していない」との回答も30%程度いるため、決して、この状況は好ましいとは言えません。なぜなら、自転車事故においては、自身が被害者となり怪我などをする場合だけではなく、加害者となり他者に被害を与えてしまい、それを賠償しなければならないケースも多くあるからです。そのため、学生には現在加入している保険内容を確認し、必要があれば自転車事故に対応できる保険への加入を検討することが望まれます。また、大学としても、自転車事故に係る保険についての啓蒙活動を積極的に行う必要性があります。



(6) 自転車に係る交通規則の認知度について

問47 自転車のための交通規則を知っていますか。

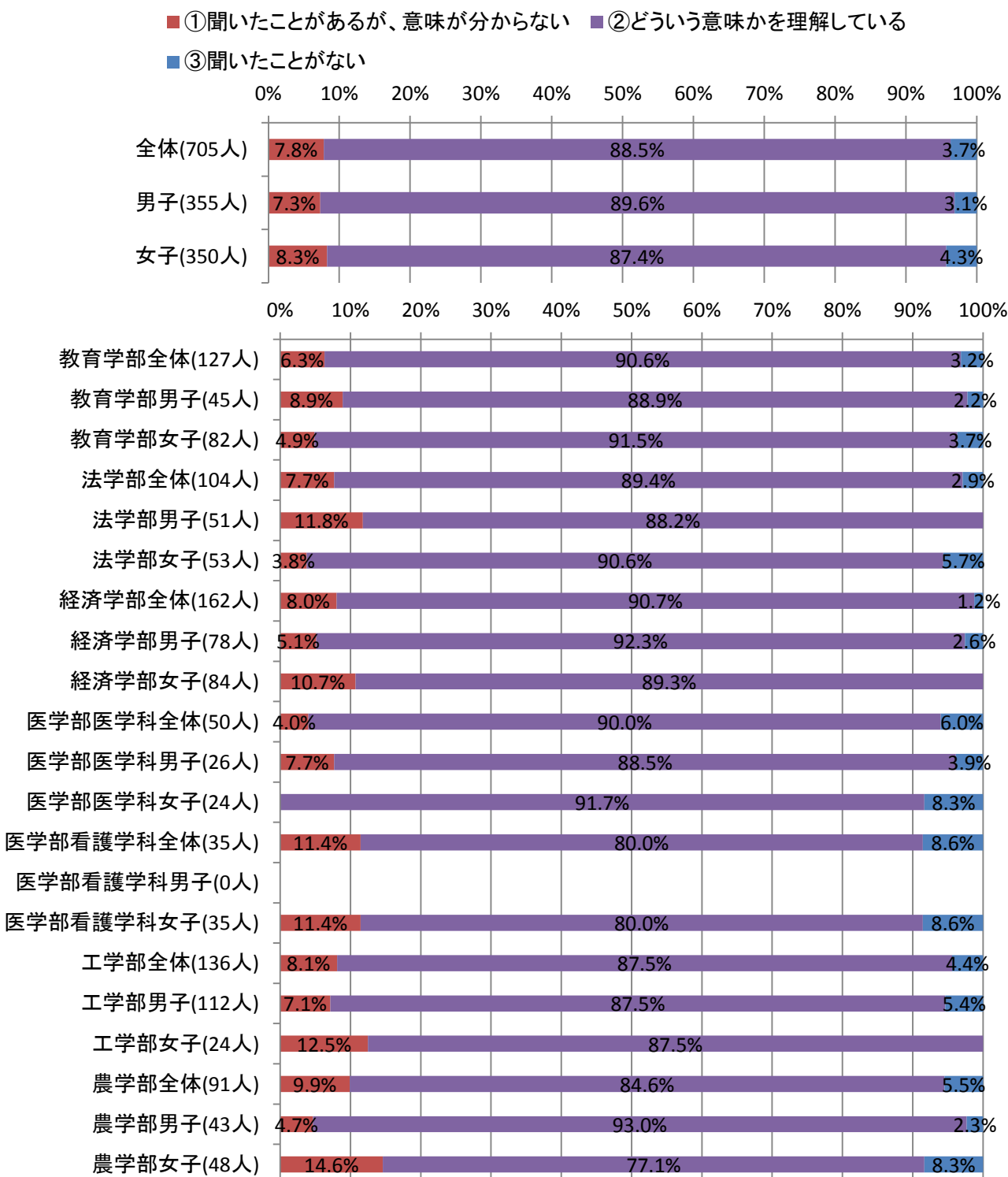
全体では、自転車のための交通規則を「十分把握し、常に遵守している」との回答が60%以上を占めました。しかし、「十分把握しているが、あまり守っていない」および「あまり把握していないが気にしていない」との回答も30%以上に登ります。近年の道路交通法の改正により、交通の危険を生じさせる違反を繰り返す自転車の運転者には、安全運転のための講習受講が義務付けられるようになりました。学生には、被害者になるケースや加害者になるケースの双方があることを認識して貰いつつ、常日頃から安全運転を心がけていくことが望まれます。大学としても、自転車利用者が多い状況の中、更なる啓蒙活動を行う必要性があります。



(7)ブラックバイトの認知度について

問48 ブラックバイトという言葉を知っていますか。

近年、社会問題になっているため、ブラックバイトという言葉について「どういう意味かを理解している」と回答した者が高い割合を占めています。大学としても、①今後も認知度を一層高めるための情報提供をし、②ブラックバイトをめぐる問題に対する具体的な対策等についても学内で情報提供や啓発活動が可能を検討し、③ブラックバイトのトラブルについて大学で相談したい場合には学内のどこが相談窓口となるのかを学生に周知するなど、の対応が求められます。

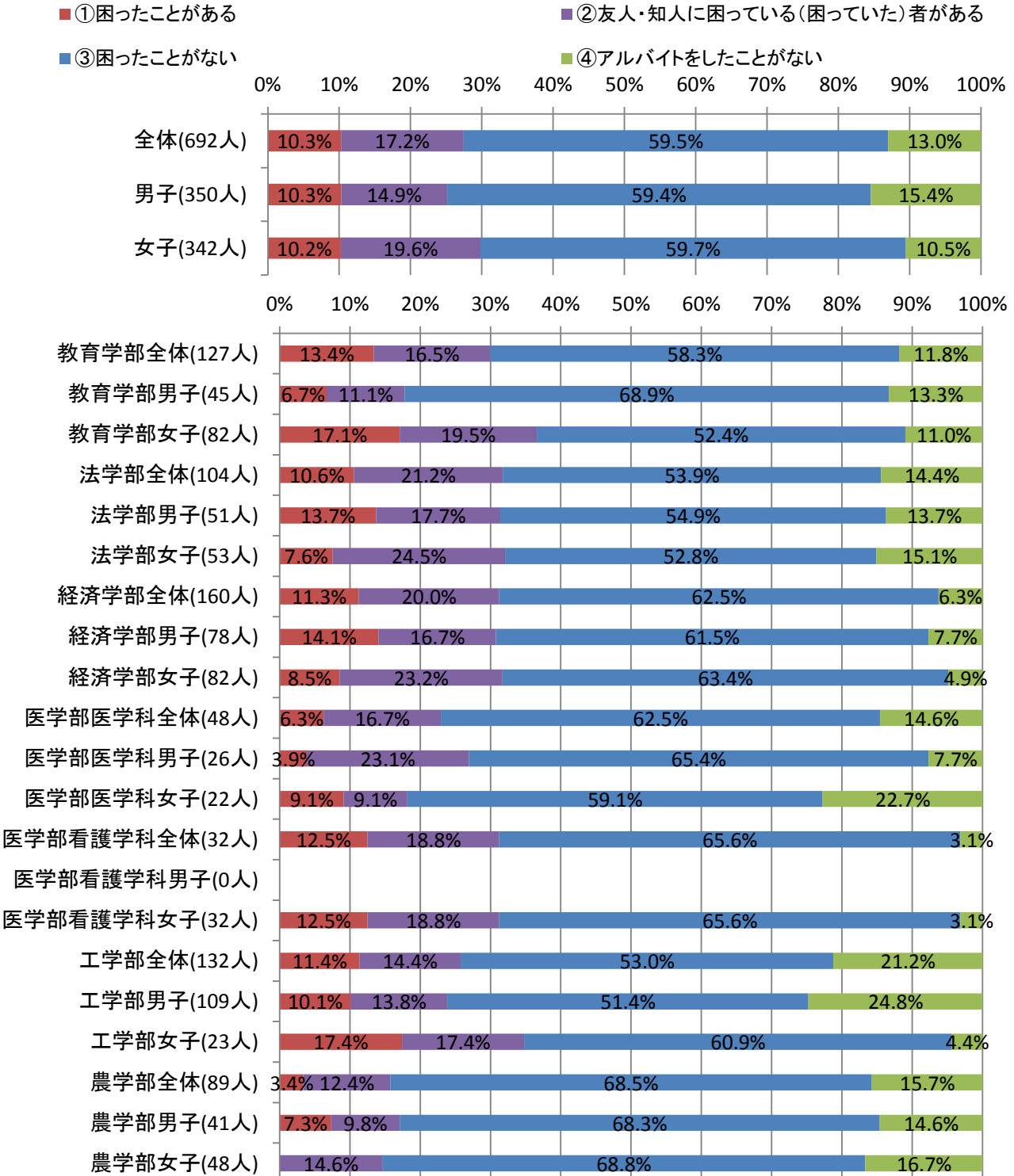




(8)ブラックバイトの被害の有無について

問49 これまでに経験したアルバイトがブラックバイトで、困ったことがありますか。

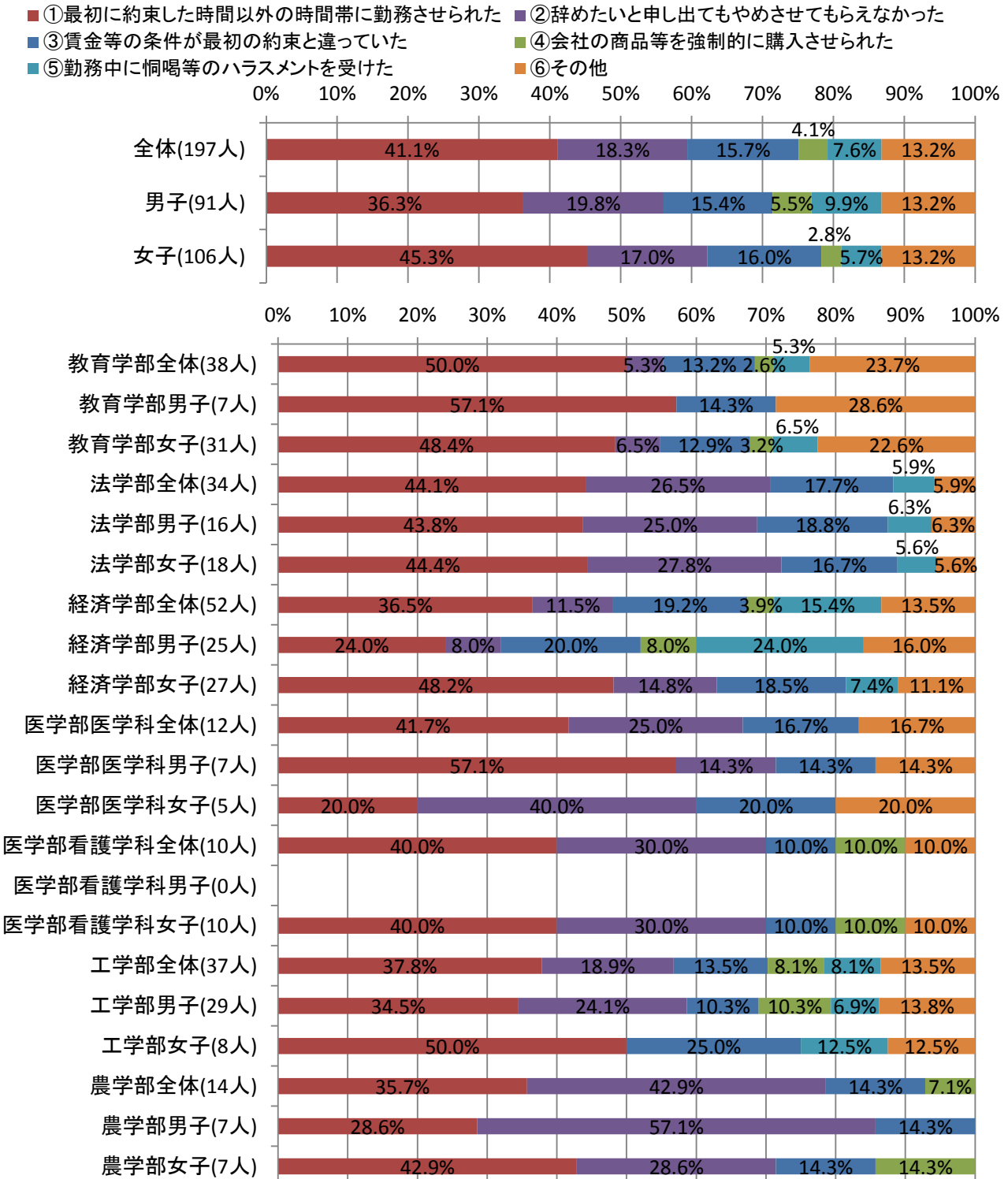
全体としては、70%以上が、ブラックバイトについて「困ったことがない」および「アルバイトをしたことがない」との回答でした。けれども、「困ったことがある」および「友人・知人に困っている(困っていた)者がある」との回答も30%近くあるため、決して身近な問題とは言い切れない部分もあります。ブラックバイトについての問題は、個人や学生だけで解決するのではなく、大学や公的専門機関にも相談をし、適切な解決を行うことが望まれます。



(9)ブラックバイトの被害の内容について

問50 問49で1、2と答えた方に質問します。どのような内容で困りましたか。

ブラックバイトの被害内容としては、「最初に約束した時間以外の時間帯に勤務させられた」との割合が最も高い結果となっています。また、「②辞めたいと申し出てもやめさせてもらえなかった」との回答も一定数います。被用者は学生であるため、お金がないことから、足下を見る使用者も多く存在しています。そのため、被用者としては、契約内容をしっかり確認しつつ、被用者の権利・使用者の義務も確認することによって、このような問題が生じないことが望まれます。また、大学としても、過去に起きた問題点を整理し、学生に情報提供をするなどの対応が望まれます。



(10)ブラックバイトの被害にあった際の対処方法について  
 問51 そのときどのように対処しましたか。

ブラックバイトの被害の相談先としては、「①友人、先輩等に相談した」および「②家族に相談した」との回答が多い結果となっております。しかしながら、「③大学に相談した」および「④公的専門機関に相談した」との回答がかなり低い状況です。そのため、大学としては、公的専門機関と連携しつつ、ブラックバイトの問題を解決し、学生がこのような被害に遭わないよう努めることが望まれます。

